

# 令和3年度 寄宿舍研究について（中間まとめ）

## I 研究テーマ

### 「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる指導実践の取組」 ～寄宿舍生の実態と手立ての共有～

## II 研究テーマ設定の理由

### 1 学校教育目標・寄宿舍教育目標から

本校では学校教育目標として「児童生徒一人ひとりが個性と能力を發揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」を掲げている。寄宿舍の教育目標は次のように定めて取り組んでいる。【表1】

寄宿舍ではこの教育目標に基づき、寄宿舍生の個別の生活指導計画を作成している。計画の作成にあたっては、本人と保護者から寄宿舍生活で身につけたいこと、将来的に身につけたいことを聞き取り、目標の設定を行っている。この指導計画の評価は、前期と後期の年2回行っており、どの程度目標を達成できたか、目標達成のためにどのような手立てを講じたか、目標の達成が難しかった場合は、目標が適切なものだったか、手立てが有効だったかなどの検証をしているが、この点については、今後さらに掘り下げた検証をしていく必要性を感じているところである。

【表1】本校寄宿舍の教育目標及び経営方針

<b>寄宿舍目標</b>
(1)自分から進んで日常生活を送ることができる。 (2)周りの出来事に関心を持ち、意欲をもって活動できる。 (3)心身の健康や安全な暮らしに関心をもって生活できる。
<b>経営方針</b>
(1)寄宿舍生個々のニーズを把握し、個性と能力を發揮できる支援に努める。 (2)家庭や学部及び関係機関との連携を図り、社会参加と自立に向けた支援に努める。 (3)健康及び安全に配慮し、寄宿舍生の健康保持に努める。

### 2 これまでの寄宿舍研究から

#### (1)成果

- ①新実態把握シートとプランニングシートを利用し、一人ひとりに応じた指導の充実を図ることのできるような個別の生活指導計画を作成する。
  - ア 新実態把握シートやプランニングシートを活用したことで、一人ひとりの実態や具体的な手立てが分かりやすくなり、個別の生活指導計画作成に役立った。
  - イ プランニングシートは実態把握シートと連動するように改善した。段階に分けた短期目標を記載する欄や、特記事項を記載する欄を作成した。

②本人が分かりやすく主体的に活動できる目的と具体的な手立てを考え取り組む。

ア 手立てを考え、本人と確認することで、本人にとってより分かりやすくなった。

イ 前期・後期で目標を設定して指導計画を作成し、評価することにした。前期の評価から、後期に手立てなどを改善して取り組むことができた。

③PDCA サイクルを進める。

ア 指導員間で手立てを共有し、改善できることがあれば変更しながらすすめることができた。うまくいった手立て、うまくいかなかった手立てを棟ごとの連絡会（棟会）を中心に指導員間で共有し、追加変更などして支援にあたった。

イ 各棟1事例（計2事例）にして進めた。そのことで、昨年度より検討する時間をとることができ、手立ての見直しができ効果的な支援ができた。

(2) 課題

①実態把握シートを作成したが、空欄が多くなったときに評価が困難なところがある。実態に合わないこともあった。

②実態把握シートは、ページ数が多く見にくかった。

### Ⅲ 研究内容

- 1 寄宿舍研究の基本構想と共通理解
- 2 個別の生活指導計画の作成と見直し
- 3 目標達成のための実践と PDCA サイクルによる手立ての改善
- 4 個別の生活指導計画の活用、改善
- 5 研究のまとめ

### Ⅳ 研究計画

月	期日、内容	主な内容
4	9日 寄宿舍研①	・令和3年度前沢明峰支援学校全体研究計画（案）の概要について周知
5	14日 寄宿舍研①－2	・寄宿舍研究の内容、計画等について協議、資料の検討
6	18日 寄宿舍研②	・寄宿舍研究の推進
9	17日 寄宿舍研③	・寄宿舍研究の推進
11	19日 寄宿舍研④	・棟研究の推進
12	10日 寄宿舍研⑤	・寄宿舍研究の推進 ・全体研究会資料の検討
2	18日 寄宿舍研⑥	・寄宿舍研究の反省 ・全体研究会を受け、必要に応じて資料の修正

## V 研究の推進にあたって

### 1 個別の生活指導計画の作成

- (1) 本人と保護者から願いを聞き、目標・手立てを設定する。
- (2) 内容は、保護者、学級担任、各棟指導員と共有する。

### 2 達成状況の共有と手立てを検証

- (1) 目標達成状況は、前・後期で評価・共有し、目標や手立ての検証をする。必要に応じて見直し、改善する。

## VI 研究の実際

前期・後期に分けて、個別の生活指導計画をもとに、実践記録シートを作成した。「目指す主体的な姿」、「目標」、「手立て」、「生徒の様子と成果と評価」を入力し、最後に指導の振り返りと評価を入力した。

### 1 実践事例1【図1】

<研究会で話し合った内容>

- ・週に2回、月曜日と火曜日に取り組んだ。
- ・曜日は本人と決めて取り組むことにした。
- ・漢字の問題を解くことについては、最初は「え～」という反応だったが、自ら取り組む姿がみられた。
- ・その他に体を動かしたり、音楽を聴いて過ごすことができるよう、提示してはどうか。
- ・漢字の問題だけでなく、例えば漢字を使ったパズル、クロスワードなどにも取り組むことで選択できるようになり、学習時間の過ごし方に幅もできるのではないかな。

対象生徒：A		指導者：■■■■■	
目指す主体的な姿（個別の生活指導計画 年間目標） 「ビザ屋の仕事に就きたい」			
前期目標「学習時間の過ごし方を工夫する。」			
指導上の留意点（手立て）		生徒の様子と成果と評価 (◎達成○ほぼ達成△未達成▲未実施)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人と一緒に目標を確認する。</li> <li>・ 週に1回～2回行い、漢字検定9級程度の問題から取り組む。</li> <li>・ 得点表に記入し、取り組みの結果を分かりやすくする。</li> <li>・ 負担にならない程度に、問題を提供する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎取り組み内容と頻度を確認できました。</li> <li>・ 9級～6級の問題に取り組み、これからは、7級、6級の問題に取り組むことを確認し行いました。</li> <li>○得点表は作成しませんが、問題をファイルして振り返ることができるようにしました。</li> <li>◎週に2回程度の取り組みでしたが、積極的に行いました。</li> </ul>	
指導の振り返りと評価（観点別評価）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母親の強い希望で目標を設定しました。</li> <li>・ 問題に取り組んだ後、自分の漢字ドリルに取り組むことができました。</li> <li>・ 分からない問題は、国語辞典を引くことができました。</li> <li>・ 家庭の協力もあり、何冊かドリルを用意してもらいました。</li> </ul> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語辞典を引いて調べることがありました。</li> </ul> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週に1、2回のペースで取り組むことができました。</li> <li>・ 与えた課題の他に、自分のドリルに取り組むことができました。</li> </ul>			

【図1】実践事例1

## 2 実践事例2【図2】

<研究会で話し合った内容>

- ・挨拶する間を逃すとできないが、相手が寝ていても挨拶することができた日もあった。挨拶ができたことを報告することもできた。
- ・調理員にも頭を下げて挨拶を表現していた。
- ・挨拶や話しかけるとき、その場の状況がみられるようになった。相手のことや、その場の雰囲気を感じられるようになってきている。
- ・指導員とのやりとりだけでなく、同室の生徒と趣味をとおして関わりをもち、一緒に過ごす場面がみられた。
- ・自分から複数の指導員に関わる場面が増えた。(裁縫、ゲームなど)
- ・スマホゲームの話題やゲーム(UNO)をとおして、学校であったことなど話してくれるようになった。
- ・自分の思い通りにしたがる傾向にあったが、他生徒と一緒に暮らす中で、相手を認め、また認め合えたことがベースになっている。その先に挨拶がある。
- ・あまり関わりのなかった生徒や指導員とも、会話することができるようになってきた。
- ・同室者と気持ちのやりとりが増え、折り合いが付けられるようになってきた。

対象生徒	B	中学部	2年	指導者	
目指す主体的な姿(個別の生活指導計画 年間目標) 「挨拶を返すことができる。」					
後期目標 「同室の寄宿舎生に挨拶をすることができる。」					
指導上の留意点(手立て)			生徒の様子と成果と評価 (◎達成○ほぼ達成△未達成▲未実施)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の仕方について確認する。</li> <li>■指導員側のBさんの挨拶の捉え 言葉の他に、目を合わせる、頷き、ジェスチャー、手話なども挨拶として認める。</li> <li>■指導員からのコミュニケーションの発信 指導員が得意な分野を活かして、興味関心を引き出しながら関わる。</li> <li>コミュニケーションの先に挨拶がある。</li> <li>・がんばり表を作成、準備する。</li> <li>・挨拶ができたら、がんばり表にシールを貼る。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分から挨拶できる日が増えた。</li> <li>○下校時に職員室をノックして「ただいま」と挨拶できる日があった。(週2回ぐらい)</li> <li>○気分にもよるが、自分から相手の名前を呼んで「ただいま」や「おはようございます」「おやすみなさい」が言えることがある。</li> <li>同室者だけでなく指導員にも挨拶ができるようになってきている。</li> <li>△本人と相談し、がんばり表を作成した。指導員と一緒に挨拶の状況を確認しながら、できたときにはシールを貼って評価した。最初の1ヶ月ぐらいは一緒に振り返りをし、評価することができたが、それ以降は気が向かないことが多く、表を使っている評価が継続されなかった。</li> </ul>		
指導の振り返りと評価(観点別評価)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員が挨拶の捉え方について発想の転換をしたことで、緩やかではあるが目標が達成されたことと評価できる。 <b>※最大の成果は指導員の発想の転換</b></li> <li>・本生徒の興味があることに着目して指導員が関わることで、コミュニケーションが広がった。さらにコミュニケーションの広がりが挨拶のしやすさにつながった。</li> <li>・がんばり表を作成するにあたり、本人が継続できるよう配慮し、相談しながら作成した。短い期間では一緒に評価することができたが、長期活用はできなかった。興味を示さなくなった段階で、評価の仕方と方法を再考すればよかった。評価と見直しは実態に合わせて1ヶ月単位が望ましい。</li> </ul>					
【知識・技能】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の手段を身に付けた。(言葉、目を合わせる、頷き、ジェスチャー、手話など)</li> </ul>					
【思考力・判断力・表現力】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の状態や状況に合わせて、挨拶の方法を選択できた。</li> <li>・得意な手話を使って挨拶をした。</li> </ul>					
【主体的に取り組む態度】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から意識して相手の名前を呼び、挨拶する姿がみられた。</li> <li>・進んでがんばり表にシールを貼ることができた。</li> <li>・複数の指導員と関わる場面が増えた。</li> </ul>					

【図2】実践事例2

### 3 研究のまとめ

実践を進める中で、目標達成に向けて取り組んだ結果、どのような力がついたのか振り返ることができるよう、観点別での評価項目を追加した。

また今年度の研究の取り組みについて指導員にアンケートを実施した。

アンケートは次の項目である。

- ア 研究主題を意識して取り組むことができたか。
- イ 研究内容・方法はどうか。
- ウ 指導員間で支援を十分に共有し、取り組むことができたか。
- エ 実践事例の書式はどうか。
- オ 観点別評価を取り入れたことはどうか。

これらの内容に基づき、成果と課題を以下にまとめる。

#### (1) 成果

- ① 実践記録シートに観点別で評価する項目を追加したことで、どの力がついたのか分かりやすくなった。
- ② アンケートの回答において、
  - 主体的な生活について改めて考えることができた
  - 定期的に話し合いができ、意識して取り組むことができた
  - 生徒との関わり方について、改めて考えるきっかけになった。
  - 難しく考えずに取り組むことができた。
  - 個別の生活指導計画を活用したのはよかった。取り組みやすかった。などの記述があった。

#### (2) 課題

- ① 観点別評価の記載の仕方について、指導員の研修の必要がある。
- ② アンケートの回答において、以下のような記述があった。
  - 研究会で情報共有はできたが、日々の取り組みや実践が不明確で指導員間の共有ができていたとは言えない。
  - 話し合う場を設けたり、取り組むための仕組みがあればよかった。
  - 情報共有がもう少し短い期間でできるとよい。日々の棟会でももう少し話題にしてもよいと思う。
  - うまくいかなかった事例について、どうしてうまくいかなかったのか、何がよくなかったのか、どうすればよかったのかも協議しないと、自分たちの成長につながらないのではないかと。よい点、反省、課題、改善点を考える研究にしていきたい。
  - 全体に関わる活動や行事などに取り組んだ事例を取り上げると、指導員の支援をより高め

ていけるのではないか。

- 研究のための研究ではなく、普段行っていることを深める研究がよい。

### **(3) 次年度の研究に向けて**

- ① 実践事例について検討する場として、年間4回の寄宿舍研究会の他に、定期的に行っている棟ごとの連絡会（棟会）の中で実践事例について情報を共有する時間を設ける。
- ② PDCA 再確認する必要がある。評価を見て、達成が難しいときは手立てを見直し、次の計画につなげるというサイクルをこれまでより意識して、目標を達成できるよう実践する。